

うつ病、声で診断

ハッピープリント社長
中国の大学と検証

ハッピープリント(東京都渋谷区、03・5789・5782)の中上昂子社長は、声を手がかりとした、うつ病診断法の共同研究を中国・上海交通大学医学部のホウ・ダイ医師と4月25日に始める。約1年かけてうつ

病患者と健常者それぞれの音声を収集し、データを分析。確実にうつ病と診断できるかどうかや、早期発見に役立つかどうかなどについて科学的知見から検証する。

ハッピープリントはうつ病診断のアプリケーション「サイコアナライザー」を活用す

る。このソフトは音声を基に感情を自動判断し、うつ状態を測定する。東京と上海でうつ病患者と健常者それぞれ50人を対象に、診察時の音声を約3分間ずつ収集。データをサイコアナライザーで分析し、音声でうつ病患者を見分ける診断法の有効性を検証する。今回は実用化まで踏み込んだ研究は行わない。

日本、中国ともうつ病患者増が社会問題化する中、医師の問診が追いつかない事態が起きているという。中上社長は「音声による診断法を確立できれば、正確で迅速な診断を実現する可能性が広がる」としている。